



新名神高速道路 菟野第二高架橋他3橋(PC上部工)工事 (三重県)

第71期 株主通信

2018年4月1日～2019年3月31日

 株式会社 ピーエス三菱

証券コード：1871



事業環境の大きな転換期を迎え さらなる収益基盤の強化と 変革による成長分野の拡大 に努めてまいります。

これからも社会の発展に尽くし、高度な社会資本の整備や地球環境の保全に貢献する企業として、「ピーエス三菱」はPC技術を通じた社会的価値の創造を続けます。

代表取締役社長 社長執行役員

藤井 敏道

■ 当年度の事業環境と業績概況について

当連結会計年度における我が国経済は、足元では輸出の伸び悩みや生産の一部に弱さが見られましたが、底堅い国内需要に支えられ、企業収益は概ね高い水準を維持しており、設備投資も増加基調にあります。また、個人消費においては、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復が持続しております。一方で、米中貿易摩擦や英国のEU離脱などによる企業業績への影響、消費税増税による景気の停滞懸念など、事業環境の不透明さが増しており、引き続き予断を許さない状況になっております。

当社グループが属する建設産業においては、防災・減災対策や老朽化したインフラの整備などによる建設投資が底堅さを維持したことにより、経営環境は良好に推移しました。

このような経済状況のもと、当社は「中期経営計画2016」の基本方針・戦略に基づき、最終年度においても組織体制の強化や採算管理の徹底を図ることで、収益力の向上と経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

■ 今後の取り組みについて

当社を取り巻く事業環境は、大阪万博等の明るい話題もありますが、東日本大震災の復興需要や東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う建設需要がピークを過ぎ、また、建設投資の中身についても、新設から維持・補修へと質的变化が想定よりも早く進んでおり、大きな転換期を迎えることとなります。加えて、労働人口の減少・高齢化やワークライフバランスの推進、都市と地方との地域間格差の広がりなど、社会情勢の変化はさらに加速するものと予想されます。

斯かる事業環境を鑑み、当社グループでは、新たに10年後の目指す姿を見直し、それを具現化すべく「中期経営計画2019」を策定しました。当社グループ全体で、転換期における持続的な成長を実現させ、魅力あふれる企業集団となれるよう全力で取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

中期経営計画2019始動！

5月13日に公表いたしました2019年度を初年度とする3カ年の「中期経営計画2019（2019年度～2021年度）」について、概略をご説明いたします。

前中期経営計画2016（2016年度～2018年度）の振り返り

(億円)

連結業績	2018年度 目標	実績数値		
		2016年度	2017年度	2018年度
受 注 高	1,140	1,030	1,030	1,334
売 上 高	1,130	967	1,148	1,102
営業利益	38.0 3.4%	36.8 3.8%	54.4 4.7%	87.4 7.9%
当期利益	28.0 2.5%	26.5 2.7%	38.4 3.3%	79.1 7.2%
ROE	9.8%	11.2%	14.5%	24.8%
D/Eレシオ	0.42倍	0.49倍	0.49倍	0.31倍

当社グループでは2016年5月に「さらなる信頼と新たな挑戦～変革へのファーストステージ2016～」をスローガンとした中期経営計画2016を策定し、その実現に向けて各種施策に取り組んでまいりました。

土木事業では、新設橋梁での安定的な受注・売上規模を維持しつつ、成長分野である床版取替工事等の大規模更新・メンテナンス分野の事業を拡げました。また、建築事業では、品質最優先の取り組みおよびコスト競争力の強化に努め、PC技術を取り入れた企画・提案型の受注活動に取り組んでまいりました。

前中期経営計画2016期間中の外部環境は良好に推移し、当社グループにおいては採算管理の徹底など収益基盤の強化により、安定して利益の出せる「骨太な経営体質」となり、5期連続の最高益更新となりました。

長期経営ビジョン (10年後の目指す姿)

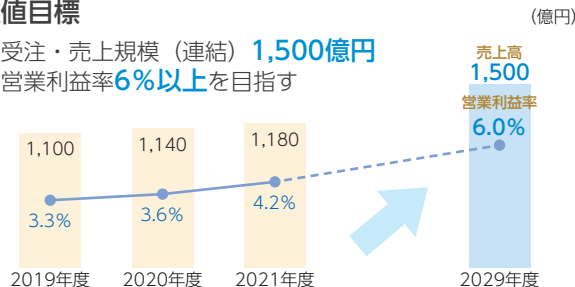
社会基盤の強靱化にPC技術を核とした省人・省力化施工で貢献する企業集団となる

4つのアクション

信 頼 いいものを作り続ける	成 長 成長分野をリードする
挑 戦 新しいフィールドへ挑戦する	連 携 グループの強みを活かす

数値目標

受注・売上規模（連結）**1,500億円**
営業利益率**6%以上**を目指す



今後の事業環境の変化と社会的な要請を見据え、PC業界のトップランナーとして、新たに10年後の目指す姿を見直しております。

今後、事業環境の大きな転換期を迎える中、経営の根幹となる「安全」と「品質」の確保と「CSR」の徹底を最重要テーマとして取り組んでいくとともに、E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）の様々な課題からのニーズに的確に対応した企業経営に注力いたします。この転換期においても持続的な成長を実現するとともに、企業価値の向上と魅力あふれる企業集団を目指して取り組んでまいります。

戦略テーマ さらなる収益基盤の強化と変革による成長分野の拡大

基本方針

戦略テーマは「さらなる収益基盤の強化と変革による成長分野の拡大」といたしました。建設業の基本である「安全」・「品質」・「CSR」の徹底により、社会からの信頼を得ることを最優先事項として、省人・省力化施工の開発と改善を推進し生産性を向上させ収益基盤を強化するとともに、大規模更新・PC建築・メンテナンス・海外の成長分野への取り組みを強化し、事業領域の拡大を目指します。

また、他業種との協力、協業を推進し、建設周辺事業での収益源の多様化を進めます。人材面では、多様な人材の確保と育成を行い、職場環境を活性化させて各人の能力向上を図り、働き方改革を加速させるとともに、IoT・ICTを最大限活用して業務効率を高め、生産性を向上させてまいります。

さらに、技術開発・人材・設備への投資を充実させ、他社との差別化を図ります。

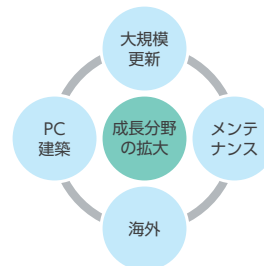
事業方針

戦略テーマと基本方針をベースに各セグメントの事業方針と戦略を定めております。

土木事業では、新設橋梁でのトップランナーの地位を確固たるものとし、大規模更新・修繕工事を主力事業に発展・成長させ、建築事業では、PC技術を核とした元請、設計施工案件の取り組みを強化・拡大し、エリア展開を進め、受注の強化と収益力の向上を目指してまいります。

また、国内建設市場の縮小に備え、成長分野として位置づけている海外事業の受注拡大や、兼業事業での収益源の多様化に向けた不動産事業や建築周辺事業への取り組みを強化してまいります。各事業の成長を支える技術開発では、成長分野の強化と新領域への挑戦で優位性を向上させ、人材・組織では、人材育成や情報技術、企業ブランドの強化を図り、活力ある企業集団を目指します。

- 「安全」・「品質」・「CSR」の徹底で、社会より高い信頼と評価を得る
- 省人・省力化施工の開発と改善を推進し生産性を向上させ、収益基盤を強化する
- 成長分野（大規模更新・PC建築・メンテナンス・海外）への取り組みを強化し、事業領域を拡大する
- 多様な人材の確保・育成を行い、職場環境を活性化し、各人の能力向上を図る
- 働き方改革を加速させるとともに、IoT・ICTを最大限活用し業務効率を高める
- 技術開発・人材・設備への投資を充実させ、他社との差別化を図る
- 他業種との協力、協業を推進し、建設周辺事業での収益源の多様化を進める



土木事業

大規模更新・修繕工事を新設工事とならぶ主力事業として発展・成長させる

海外事業

海外パートナーの新規開拓と既存パートナーとの連携強化により、海外事業の拡大を目指す

製造事業(国内)

安定した生産トン数の確保とコスト低減による価格競争力の向上を図る

技術開発

成長分野の強化と新領域への挑戦により優位性を向上させる

建築事業

PC建築の拡大とエリア展開を進め、受注の強化と収益力の向上を目指す

兼業事業

建築事業の裾野を広げるため、保有・賃貸・管理・修繕などの建築周辺事業を推進する

製造事業(海外)

海外企業との戦略的なアライアンスにより、顧客を増やし受注を拡大する

人材・組織

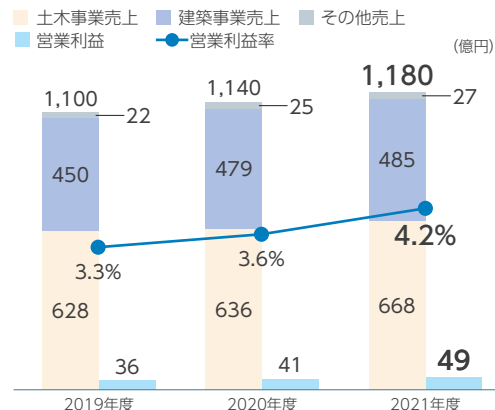
経営基盤としての人材、情報技術、企業ブランドの強化を図り、活力ある企業集団を目指す

3カ年の数値計画

今後の事業環境は、土木においては新設橋梁から維持・補修工事の質的变化が想定よりも早く進んでおり、建築は大阪万博開催やインバウンド需要など明るい兆しもありますが、発注量のピークは過ぎ、厳しい競争環境が予想されます。

当社の手持ち工事の状況を見ると、土木事業では生産効率が低い維持・補修工事の比率が高まっており、建築事業でも人口減少などにより新設から維持・補修へのシフトが進んでいくことが想定されます。

このような事業環境の転換期において、当社グループ全体で安定した財務基盤を維持しながら収益力を向上させ、目標数値の必達に取り組んでまいります。



資本政策・経営指標

(1) 資本政策

安定した財務基盤の確保を維持しつつ「成長分野の拡大」に向けた投資を実行する

- ・ **営業利益率 4.2%**（最終年度）
生産性向上による収益の改善を目指す
- ・ **ROE 9.0%以上**（最終年度）、**ROA 5.0%以上**（最終年度）
株主資本コストを上回るROEの実現を目指す

(2) 財務の健全性

事業特性やリスクを踏まえ、さらなる財務基盤の強化と自己資本の充実を目指す

- ・ 自己資本比率 **40%以上**、D/Eレシオ **0.30倍以下**

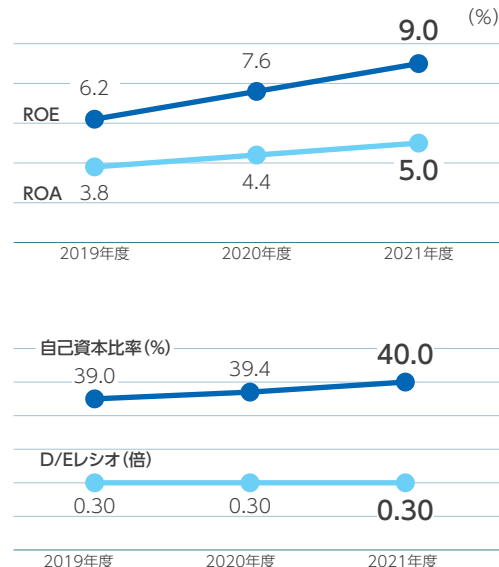
(3) 投資計画

- ・ 大規模更新事業等に向けた設備投資・不動産投資 **70億円**
- ・ 成長分野および生産性向上への研究開発投資 **20億円**
- ・ 人財の確保および育成のための人財投資 **10億円**
- ・ その他 M&A等

(4) 株主還元

継続的かつ安定的な配当を実施する

- ・ 配当性向 **25%～30%**

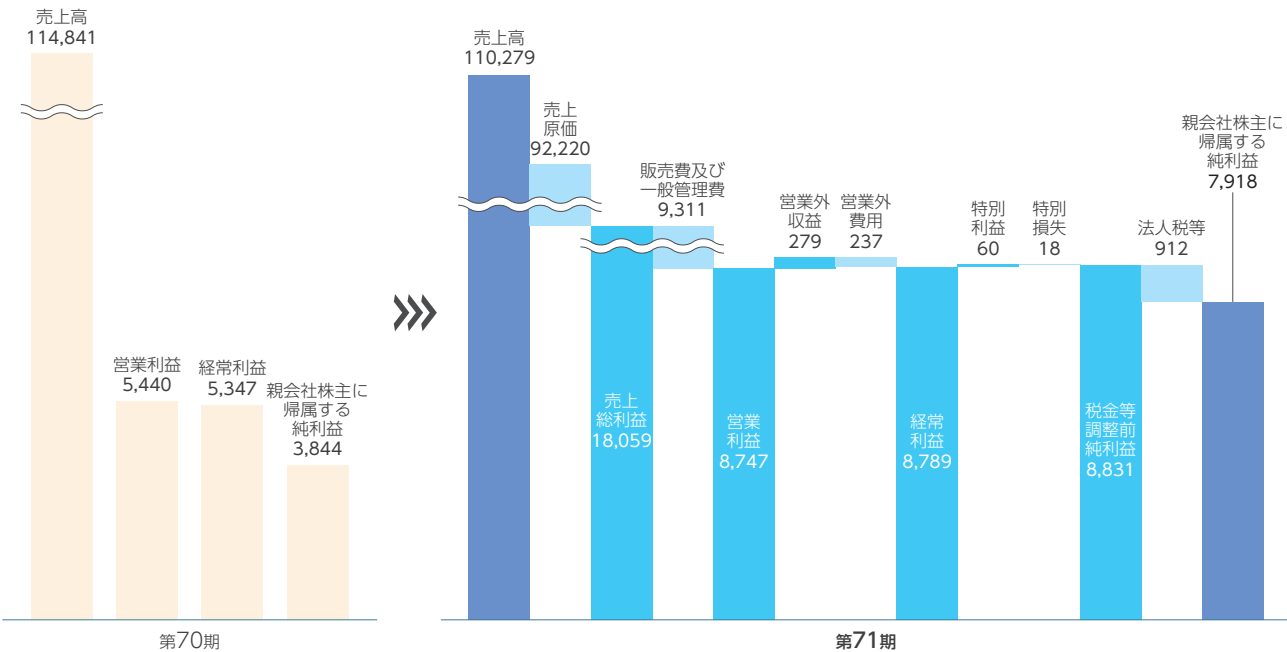


連結財務ハイライト



- ▶ 収益力の向上により、経営基盤は強化
- ▶ 土木の大幅な利益増加により5期連続最高益更新

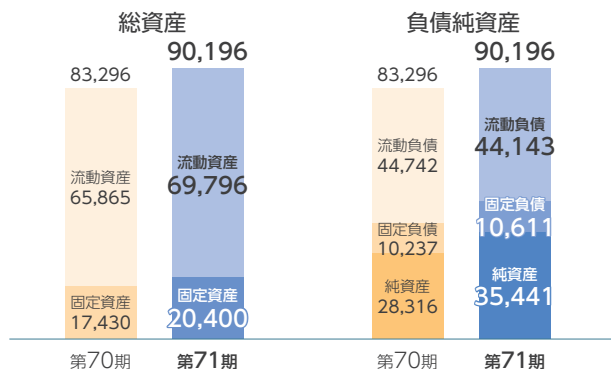
連結損益計算書 (百万円)



ポイント

- 売上高: 建築の工事進捗が計画を下回り、前期比4.0%減少しました。
- 売上総利益: 前期比42億39百万円大幅増加し、利益率が12.0%から16.4%に向上しました。
- 販売費及び一般管理費: 人件費増、過年度情報処理費用の計上等により9.3億円増加しました。

■ 連結貸借対照表 (百万円)



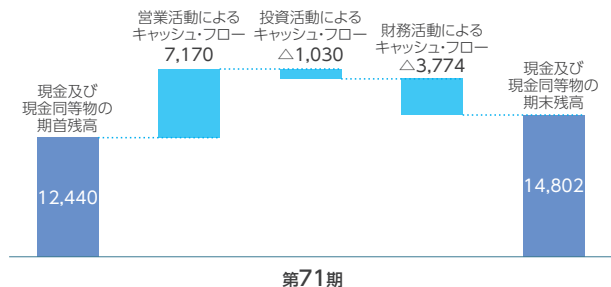
※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。



ポイント

- ・流動資産:現金預金が営業収入の入金等により約23億円増加しました。受取手形・完成工事未収入金等が請負工事の竣工等により約24億円増加しました。
- ・流動負債:電子記録債務が支払により約11億円、短期借入金が返済により約26億円減少しました。

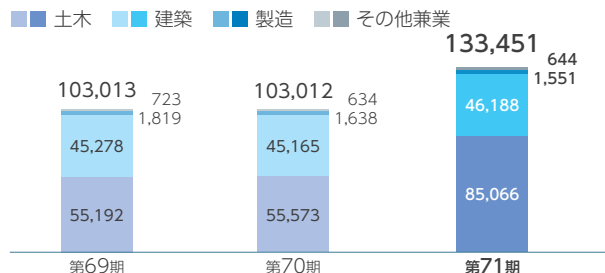
■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



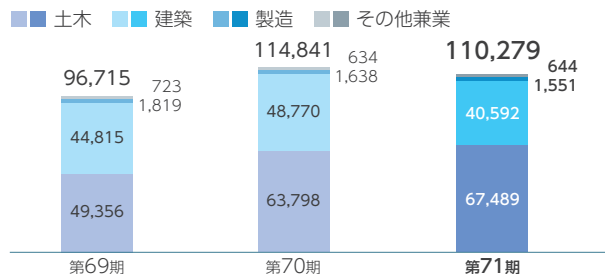
ポイント

- ・財務活動によるキャッシュ・フロー:工事代金等の回収により短期借入金を返済しました。

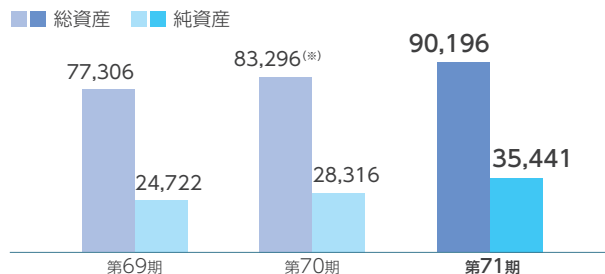
受注高 (セグメント別) (百万円)



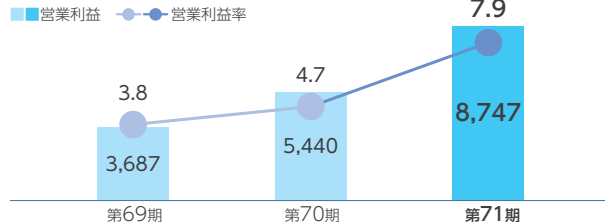
売上高 (セグメント別) (百万円)



総資産／純資産 (百万円)



営業利益 (百万円) ／営業利益率 (%)



フルキャスト^{かべこうらん}壁高欄工法の開発 ～高速道路の更新工事期間を短縮する技術～

我が国の高速道路では橋梁部の老朽化した床版の取替工事が進められていますが、供用中の高速道路において、交通規制による社会的影響（渋滞など）を最小限にするために、短期間での施工が求められています。

そうした中、当社では橋梁の側面に設置される「壁高欄」と「プレキャストPC床版」をあらかじめ一体化させた部材（右上図）を工場などで製作し、一括で架設する工法『フルキャスト壁高欄』を開発しました。

従来はPC床版に取り替えた後、現場で壁高欄を施工する方法が一般的でしたが、この工法は壁高欄と一体となったPC床版を架設後、目地部に無収縮モルタルを充填するのみで施工が完了するため、現場での施工が極限まで省力化できます。

東日本・中日本・西日本高速道路株式会社（以下NEXCO）がプレキャスト方式の壁高欄に求める性能も確認済みで、今秋にもフルキャスト壁高欄を採用したPC床版が架設される予定です。



工場などであらかじめ一体化して製作

----- 現場施工の短縮・省力化のメリット -----

働き方
改革

現場で壁高欄のコンクリート打設が不要なため、現場作業者の負担を大幅に軽減できる

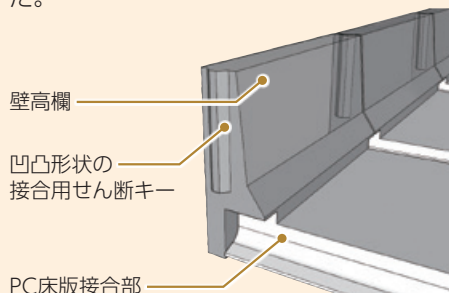
生産性
向上

工場など品質管理の体制が整った環境で高品質な製品を計画的かつ効率的に生産できる

interview

■他のアピールポイントは？

壁高欄の内部には電気や通信用のケーブルを配線する必要がありますが、プレキャスト方式の壁高欄を採用する場合、壁高欄同士を接合する継手構造が必要なため、ケーブル配線は容易ではありませんでした。そこで、試行錯誤した結果、継手構造に凹凸形状のせん断キーを採用することでケーブルの配置を可能としました。



■どのような試験を行いましたか？

耐荷性能を確認する試験では、衝突台車を用いて自動車の衝突荷重に相当する衝撃度を与える試験を行いました。段階的に衝撃度を大きくし、各段階でNEXCOが定める規格を満たしていることを確認しました。

また、施工性の確認試験では、フルキャスト壁高欄を採用した2枚のPC床版をクレーンで架設し、電気・通信用の管路の接続や壁高欄同士の接合部分の施工に問題がないことを確認しました。

■開発者の醍醐味とは？

本工法は、今後、当社の床版取替工事で多く採用される予定です。コンクリートの長寿命化と生産性向上が求められる昨今の建設業界において、技術向上の一助となる開発に携われたことを嬉しく思います。



技術本部技術部
土木技術グループ
河中 涼一

高速道路 床版取替工事における施工方法の多様性

全国の高速道路で実施されている大規模更新・修繕事業の中で、当社は床版取替工事を中心に施工しています。供用中の高速道路で行うため、橋梁構造や地理的条件はもちろん、利用者の安全確保が第一であり、多様な要求事項をクリアすることが求められます。

当社はこれまでに培った橋梁新設工事の実績を活かして、プレキャスト床版の全断面一括取替(2車線同時)や半断面分割取替(1車線ごと)、クレーンや現場条件に合わせた専用架設機によるプレキャスト床版架設工法を提案し、施工しています。また、難度が高く、実績の少ないPC合成桁橋の床版現場打替工事も積極的に施工しています。

半断面分割施工に用いるガイドキーによる施工方法やプレキャスト床版継手の『MuSSL工法』などの独自技術を開発・採用し、全国的に工事を展開しています。

プレキャスト床版の「半断面床版取替工法」



半断面ずつの施工。当社独自のせん断キーによる床版の継手構造で専用架設機による施工を実施(工事完了)

専用架設機を用いた施工



MuSSL工法を採用。専用架設機による施工(施工中)
(本紙P16「ネットワークの強み」で架設機の提供会社であるグループ会社を紹介しています)



PC合成桁橋の「床版現場打替工事」



NEXCO東日本で初となるPC合成桁橋の床版現場打替工事(工事完了)

高耐久継手構造の「MuSSL工法」



MuSSL工法を採用。ピー・エス・コンクリート滋賀工場での部材製作が完了し、10月施工予定(施工中)

CSR活動

建設業や当社へのご理解をより一層深めていただくため、「地域社会への貢献」の一環として実施しているCSR活動を一部ご紹介します。

現場見学会

近隣住民の方々や幼稚園児、小・中学生を対象に現場見学会を積極的に開催しています。

見学会では、橋の説明はもちろんのこと、橋面に絵を自由に描いたり、建設機械に触れたり乗ったり、ドローンによる記念撮影を行うなど、とても好評でした。



広島はつかいち大橋（広島県）

閉合式

大型橋梁工事において、発注者・施工関係者・地域の方々にご出席いただき、「閉合式」を開催しました。

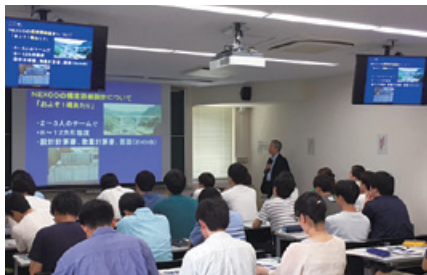
コンクリート打設体験や橋の渡り初め、バルーンリリース、人文字撮影などを行い、小学校の校長先生より「この体験は子供たちの思い出として一生残るでしょう」とのお言葉をいただきました。



菰野第二高架橋（三重県）

学生向け研修会

技術系の学生を対象に研修会等も多く開催しています。施工方法等の技術について、より一層関心を高めていただくことができました。



大学におけるPC技術講義



鈴鹿高架橋（三重県）

※閉合式とは、橋の全ての区間が繋がる時に行う式典のことです

「リスクマネジメントの推進」「コンプライアンスの推進」「ステークホルダーコミュニケーションの推進」「地域社会への貢献」をCSR基本活動方針に掲げ、「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」という基本理念の実現に向けて、社会との繋がりを考えた事業活動を行っております。また、そのためのPDCA（計画・実行・評価・改善）を実践し、充実したCSR活動を行うことでステークホルダーの皆様からの信頼向上を図るべく取り組んでいます。

CSR報告書2018

当社ホームページ内の「CSR報告書」にて、CSR活動の情報がご覧いただけます。

アドレスはこちら ▶ <http://www.psmic.co.jp/csr/>



完成工事のご紹介・・・土木編



新名神高速道路 鈴鹿高架橋他1橋(PC上部工)工事 [三重県]

本工事は、新名神高速道路のうち鈴鹿PAに近接するPC橋です。

巨大な架設機(エレクションガーダー)を使用して、セグメントを1径間ずつ接合・架設する「スパンバイスパン架設工法」によって工事を行いました。





新東名高速道路 厚木第四高架橋 (PC上部工) 工事 [神奈川県]

本工事は、新東名高速道路の神奈川県厚木市下津古久～伊勢原市石田に位置する連続プレキャストU桁橋の上部工で、上り線が橋長833m、下り線が橋長753m、最大支間長40mの橋梁です。

本橋は、主桁断面形状をU形とした工場製作によるプレキャストセグメント桁と床版部にプレキャストPC版を採用した合成床版構造で、コスト縮減に配慮された橋梁形式です。

新名神高速道路 生野大橋 (PC上部工) 工事 [兵庫県]

本工事は、J R 福知山線を跨ぐ橋長606mの橋梁です。

将来の拡幅を考慮し、ウェブは軽量化の波形鋼板ウェブを採用しております。最大支間長は188mあり、1面吊波形鋼板ウェブエクストラドーズド橋としては世界最大級です。

(2018年度 田中賞・作品部門受賞)



長崎自動車道 日見夢大橋 (PC上部工) 工事 [長崎県]

本工事は、長崎自動車道の長崎芒塚インターから長崎多良見インター間にⅡ期線橋梁として架橋されたPC3径間連続ラーメン波形鋼板ウェブエクストラードード橋です。

本橋は同種構造形式の2面吊り構造としては国内最大の支間長182mを有しています。



昭和通線(小戸之橋) 新橋設置工事(上部工1工区) [宮崎県]

本工事は、大淀川を渡河する橋梁の架替工事であり、橋長506mのうち331.5mの上部工を施工しました。

本橋の完成により老朽化に伴う通行規制が解消され、通行の安全性と利便性の向上が期待されています。

(2021年3月開通予定)

完成工事のご紹介・・・建築編



五十嵐電機製作所 新本社ビル [神奈川県]

グローバルに事業を展開している小型モーターの専門メーカーである、株式会社五十嵐電機製作所の新本社ビルを設計施工で建設しました。BCPの観点から、耐震性に優れ、地震時に復元性が高いPCaPC工法が採用されました。また、PCaPC工法ならではの大スパン架構により、広々とした空間を実現しました。



水戸市新庁舎建設工事

[茨城県] PC工事

東日本大震災により水戸市役所は大きな被害を受けたため、新庁舎が建設されました。震災の経験から、安全性・利便性および環境への配慮を基本方針として計画されています。

本建物は柱や大梁などにPCa部材が採用されており、当社は同部材の製作運搬・架設・PC緊張を請負いました。大梁にプレストレスを導入することで15mというロングスパンを実現し、またPCa部材を多用することで工期短縮に大きく貢献しました。



アスカカンパニー

ナレッジパークイースト新築工事

[宮城県]

プラスチック製品成形メーカーの生産施設です。

大空間のクリーンルームや、様々なワークショップの開催が可能な多目的ホールを備えています。

企画・提案型のコンペにおいて、当社は3D動画を積極的に活用したプレゼンテーションを行い、提案を高く評価していただき選定されました。

カレッジコート武蔵境駅前

〔東京都〕

JR中央線・西武多摩川線の武蔵境駅より徒歩3分、周辺に多くの大学がある好立地にRC造地上10階建て寮室数92室の大学生向け寮を建設しました。

人通りが多く線路にも近いため、プライバシーを確保しつつ街並みに調和をもたらす外観デザインとしました。2階には食堂・厨房設備を完備し、管理員も常駐しているため、便利で安心な住環境を学生たちに提供しています。



とみぐすく 豊見城市新庁舎建築工事

〔沖縄県〕 PC工事

本庁舎は、すべての市民が利用しやすく、市民の安全・安心を守る防災拠点、環境に配慮したシンプルで機能的なまちづくりの拠点となる「市民に開かれた庁舎」を目指して設計されました。

当社は、PCaPC工事を担当し、免震基礎ブロック・柱・梁のPCa部材製作・運搬・架設工事を請負い、沖縄本島内の協力工場で製作した部材を現地にて組み立てました。

ネットワークの 強み

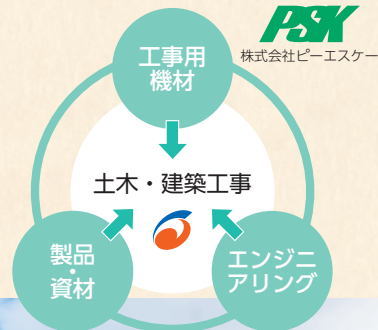
確かな技術と豊富な経験を活かした “資機材の提供”により、建設工事を支えています

当社グループは、基礎工事・部材製作・資機材提供・メンテナンス・リニューアルなど、建設関連分野においてひとつのバリューチェーンが形成されています。今回は資機材を提供する「株式会社ピーエスケー」をご紹介します。

建設工事を進める中で不可欠な架設用機材を多数保有し、土木・建築工事用資機材の企画・設計・製造・販売も行う株式会社ピーエスケー。長年培ってきた確かな技術と豊富な経験により、建設工事を支えています。

複雑な施工条件の中で必要とされる施工用機械を的確かつ柔軟にアレンジし、万全の状態で提供するエンジニアリング部門を有する会社をグループに持つことは、当社グループならではの大きな強みです。

このような『グループ力』を結集し、連携を深めながらサプライチェーン全体を見据えて、需要の拡大に応え得るさまざまな付加価値の創造を目指しています。



自社設計・製造のプレキャストセグメント用接合キー



スパンバイスパン架設機

新技術に最適な架設機材の開発



ピーエス三菱が開発する技術に最適な機材の研究開発も行っており、ピーエスケーの卓越した技術力により、これからも新分野の工事に応えてまいります。

半断面床版取替工事用に開発した架設機

(本紙P8のトピックス・P10の完成工事でもピーエスケーの架設機を紹介しています)

歴史探訪（架設・運搬）

ピーエス三菱が創業した1952年頃は架設機材などはありませんでした。工場で製作した桁を荷車に乗せて現場まで馬で運び、簡素な道具を用いて人力で架設していました。その後、橋梁の規模が大きくなるに従って限界が生じ、専用の施工機械が必要となり、架設機材が開発されるようになりました。



会社情報

■ 会社概要

商 号	株式会社ピーエス三菱 P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.
設 立	昭和27年3月1日
資 本 金	4,218,500,000円
従業員数	単体：1,089名 (2019年3月31日現在) 連結：1,700名
本社・支店	(2019年4月1日現在)
本 社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9111
東京土木支店	〒104-8572 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9511
東京建築支店	〒104-8572 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9611
東北支店	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町一丁目8番1号 東菱ビル (022) 223-8121
名古屋支店	〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内一丁目17番19号 キリックス丸の内ビル (052) 221-8486
大阪支店	〒530-6027 大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番30号 OAPタワー (06) 6881-1170
広島支店	〒730-0036 広島県広島市中区袋町4番25号 明治安田生命広島ビル (082) 240-7011
九州支店	〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜二丁目4番1号 東芝福岡ビル (092) 739-7001

■ 役 員 (2019年6月19日現在)

取締役および監査役

代表取締役社長	藤 井 敏 道
代表取締役副社長	森 拓 也
代 表 取 締 役	蔵 本 修
代 表 取 締 役	黒 柳 辰 弥
取 締 役	小 山 靖 志
取 締 役	居 村 昇
取 締 役	岸 和 博 明
取 締 役	鈴 木 俊 明
取 締 役	佐 野 裕 一
常 勤 監 査 役	朝 倉 浩
常 勤 監 査 役	水 嶋 一 樹
常 勤 監 査 役	正 木 慎 一

(注) 取締役岸和博、鈴木俊明、佐野裕一の3氏は社外取締役であります。
監査役朝倉浩、水嶋一樹の両氏は社外監査役であります。

執行役員 (※は取締役兼務)

※ 社 長 執 行 役 員 (全般統理)	藤 井 敏 道
※ 副社長執行役員 (社長補佐・海外事業担当)	森 拓 也
※ 専 務 執 行 役 員 (土木本部長)	蔵 本 修
※ 専 務 執 行 役 員 (建築本部長)	黒 柳 辰 弥
※ 常 務 執 行 役 員 (管理本部長)	小 山 靖 志
※ 常 務 執 行 役 員 (経営企画担当・ 建築本部副本部長)	居 村 昇
常 務 執 行 役 員 (国内関係会社担当 兼安全品質環境担当)	塚 原 明 彦
常 務 執 行 役 員 (東京建築支店長)	川 原 利 朗
常 務 執 行 役 員 (東京土木支店長)	宮 脇 裕 明
執 行 役 員 (建築本部副本部長 兼建築営業部長)	山 田 宏 志
執 行 役 員 (大阪支店長)	森 島 修
執 行 役 員 (東北支店長)	光 田 秀 幸
執 行 役 員 (技術本部長)	三 島 康 造
執 行 役 員 (名古屋支店長)	藤 原 博 之
執 行 役 員 (建築本部副本部長)	寒 川 勝 彦

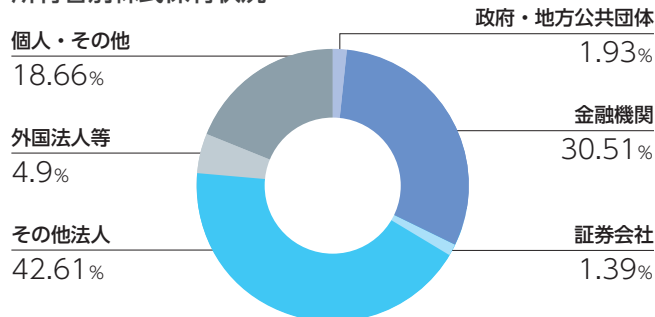
■ 株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	11,000万株
発行済株式の総数	47,486,029株
株主数	8,805 名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
三菱マテリアル株式会社	15,860,354	33.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,644,200	9.80
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 太平洋セメント口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	4,491,300	9.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,852,500	3.91
住友電気工業株式会社	1,834,800	3.87
岡山県	839,740	1.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬BIP信託口・75949口)	580,698	1.22
三菱地所株式会社	496,000	1.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	475,000	1.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	439,300	0.92

所有者別株式保有状況



ホームページのご案内

当社のホームページでは、株主の皆様向けの情報として、財務・業績情報、IR資料、プレスリリース等、IRに関する情報をタイムリーに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

アドレスはこちら

<http://www.psmic.co.jp/>



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.psmic.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
単元株式数	100株

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトに
てご回答ください。所要時間は5分程度です。



<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 1871

いいかば

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより
実施いたします。
（株式会社 a2media についての詳細 <https://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用する
ことはありません。

- アンケートのお問い合わせ 「e-株主リサーチ事務局」 TEL：03-6779-9487（平日 10:00～17:30）
MAIL：info@e-kabunushi.com

表紙の説明



本橋は、新名神高速道路整備事業の一環として、三重県三重郡菰野町の三滝川を渡河する箇所に位置するPRC3径間連続工フストラードズド橋※、PRC5径間およびPRC11径間の3連の上部工です。

※斜張橋より主桁の剛性を高めて自動車荷重に抵抗させ、主塔を低くした構造

コーポレートマーク



生命の神秘である植物の発芽がモチーフです。発芽は、力強い成長を意味し、新分野・新領域の開拓を表現しています。
また、オレンジが大地（＝土木）、ブルーが空（＝建築）、全体で地球をイメージして、自然と共生する企業を具象化しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物は、有機溶剤等を使用しない環境にやさしい「水なし印刷」で印刷し、「ベジタブルインキ」を使用しております。また、針金を使わずに製本しております。